

全教育活動における インクルーシブ教育の推進

戸田市立戸田南小学校

校内研究主題

全教育活動におけるインクルーシブ教育のあり方
～安全・安心の学級経営を通して～

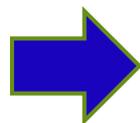


課題設定の理由

本校の児童の実態から特別な教育的支援を必要とする児童が通常学級にも多くいることが分かった。インクルーシブ教育を進めていくことは「多様な子供たちを誰一人取り残さない」ことにつながる。インクルーシブ教育の実現のベースは安全・安心の学級経営にある。

安全・安心の学級経営の実現に向けて3年間取り組んできたこと

- ・個別最適な学び（単元内自由進度学習、ホワイトボードミーティングなど）
- ・P B S（応用行動分析による手法）に基づいた積極的な行動支援
- ・UD（ユニバーサルデザイン）環境の整備
- ・アセスによる児童の実態把握
- ・プロジェクトアドベンチャーの実施



人と人との信頼関係の構築に効果は絶大



しかし、外部講師との連携が不可欠

プロジェクトアドベンチャー（P A）とは

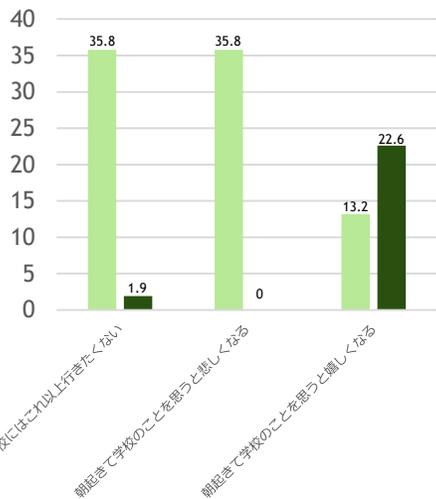
アメリカで開発された体験学習法をもとにした教育プログラム。アドベンチャーの持っている要素を通してチームワーク、自尊感情、他者理解などを体験して学ぶ。ハーバード大学等の研究でも効果が実証されており、最近ではN T T東日本などの企業の研修やJリーグのチームでも集団づくりの一方法として取り入れられている。具体的には、

- ・心の壁を低くするゲーム（アイスブレイキング）
- ・信頼感を高めるゲーム（トラスト）
- ・恥ずかしさを乗り越えるゲーム（ディインヒビタイザー）
- ・課題解決していくゲーム（イニシアティブ）



このような様々な種類の集団のゲームを教室や体育館、校庭で行い、仲間と楽しみながら信頼感を築き上げていく。

ハーバード大学2年間の調査（％）
1983 Dr.Marcus Lieberman Edward Devos



■プログラム実施前 ■プログラム実施後
平成15年 日本教育会全国大会 和歌山大会 提言(4)より

学校におけるP Aの価値



- ・学級における児童の心理的安全性が高まる。
（豊かなこころの育成、肯定的な自己概念の形成、自らチャレンジすることによる成長）
- ・コミュニケーションの多様性が広がる。
- ・外部講師からファシリテーション技能を学ぶことで場づくり、雰囲気づくりに関する教師の指導力の育成につながる。

今回行いたいこと

- ①プロジェクトアドベンチャー・ジャパンによるAdventure In The Classroom（ファシリテーター派遣型体験プログラム）の招聘（6年生児童対象 3時間）
- ②学校内でのアクティビティ実施を**持続可能なものにするための**教職員研修の実施

Adventure In The Classroom（ファシリテーター派遣型体験プログラム）にかかる費用

企画費：10万円

受講費：児童一人につき2,500円（×114人）

スタッフ交通費：

計385,000円+交通費

※学校としてP Aを導入する場合の教職員研修は無料

まとめ

全教育活動におけるインクルーシブ教育を推進していくための一つの手法として、P Aを導入したい。また今後持続可能性を高めるためにP Aの教職員研修を実施したい。

そのために今回のクラウドファンディングにより、Adventure In The Classroom（ファシリテーター派遣型体験プログラム）の費用の捻出を期待する。

Adventure In The Classroom



▶ 安全・安心の学級

実態把握 児童観察
アセス

環境づくり
PBSの環境づくり
UD環境
P Aの導入

授業研究
個別最適の授業
PBSの授業

インクルーシブ教育の実現

共生社会へ 人権の保障